

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472602737	事業の開始年月日	平成17年3月1日
		指定年月日	同上
法人名	医療法人社団 仁和会		
事業所名	グループホームすみれ		
所在地	(〒252-0231) 神奈川県相模原市中央区相模原8-6-17		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月17日	評価機関 評価決定日	平成23年5月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】
このホームは、JR横浜線相模原駅より徒歩で10分程の距離の静かな住宅地にある。道路をはさんだ向かいには保育園があり行事等を通じて交流している。また、近くには公園やコンビニエンスストアが散在し、日々の散歩や買物に利用できる。駅に行く途中には様々な商店や銀行、レストラン、スーパーマーケット等が立ち並び、入居者はウィンドウショッピングや食事を楽しむなどして入居以前と同じような生活を営むことができる。

【地域との連携】
自治会に加入し地域の行事に参加している。昨年の目標に掲げた「地域との関わり」及び「市との連携の促進」に取り組み、運営推進会議への地域包括支援センター職員等の参加が実現した。さらに家族会でも地域の方の参加を呼びかけ、ゲームやバイキング、屋台などを催して地域の方々が来訪し親睦と交流が行われている。家族会には運営推進会議のメンバーが参加することもある。また、向かいの保育園の呼びかけで、運動会や豆まき、お遊戯会を見学するなど子ども達と交流している。地域の方が絵手紙・陶芸・フラダンスのボランティアで来訪し、利用者が参加して作品をつくったり観賞して楽しんだりしている。

【利用者への姿勢】
職員は「ふれあい、支えあい、認め合い、安らげる生活の場」という理念を共有している。自分らしい生活の支援をサービスの基本に据え、利用者に優しく接して声をかけたり誘導して、本人が心穏やかに過ごすことができるように努めている。家族の来訪時には、日頃の生活ぶりを報告すると共にきめ細かく意見や要望を聞いている。食事の際には、摂食が困難な方には同じテーブルで複数の職員が同席して交代で支援し、できるだけ残さずに食べてもらうように気を配っていた。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームすみれ
ユニット名	ぼたん

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時やスタッフ会議時に確認している。	理念は各フロアに大きく掲げている。職員は日々のサービスの場でも確認することができ、利用者とのかわりの中で理念を意識して、安らげる生活を送ることができるように支援している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会に地域の方々の参加をお願いし、交流を図った。	自治会に加入し行事に参加している。また家族会に地域の方が参加し交流している。絵手紙、陶芸、フラダンスのボランティアが来訪し、利用者が参加したり楽しんだりしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特にしていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者の意見を取り入れ、サービスに生かせるよう努めている。	運営推進会議は年2回開催している。自治会長、民生委員、清新地区地域包括支援センター、家族、管理者、職員等で、時には近くの保育園園長が参加することもある。ホームの状況報告を行うと共に利用者の様子を伝え、その後出席者の情報を聞いたり質疑応答を行っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターのケア会議に出席し、協力関係を築けるよう努めている。	相模原市介護予防課、地域のボランティア団体、介護事業所、社会福祉協議会、清新地域自治会ブロック代表者等が参加する地域包括支援センター主催の会議に出席し、情報交換して連携をはかっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員は周知しているが、夜勤者が訪室している時間帯は施錠している。	管理者は職員会議等で身体拘束に当たる行為について話し、日々のケアにおいて気を配って利用者に接している。玄関は不審者に関する情報もあり、検討した結果、日勤者と夜勤者の交代時間には鍵をかけているが、各フロア入口は施錠していない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃さないよう注意している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のパンフレットを用意している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映できるよう努めている。	年2回の家族会では利用者や家族の意見も取り入れて、午前中はゲーム大会やバイキング式の食事を実施している。午後には利用者の現状報告や事務連絡、預かり金の報告、確認及び意見交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	できる限り機会を設け意見を聞くようにしている。	管理者は、職員会議で職員人事や利用者受け入れの情報を伝えている。また、職員の意見や提案を聞き取っている。意見・提案は皆で話し合っけて検討し、必要に応じて運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、賞与、昇給時に人事考課をし、個人の能力を把握している。また、定期的にホームを訪問し、職場の整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の老健施設で施設内研修を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の3施設の交流やグループホーム協会に入会している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく早くホームに馴染んでいただけるようスタッフが声掛けしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からのご希望、ご質問があればすぐ対応するようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者の能力にあった協力をお願いしている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のお話を聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援できるよう努めている。	ボランティアのサポートで作成した絵手紙や年賀状を、職員が支援して家族や知人に出している。アセスメント等で以前の間関係を把握しており、希望があれば昔なじみの知人への電話を支援している。以前からの友人が訪ねて来ることがある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が悪化しないようスタッフが間に入ったり、お互いに理解しあえるよう働きかけている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から連絡があった時に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日ごろから利用者の話を聞くようにしている。	重度化した場合は、食事の際の状態や日頃の行動を観察するなどして、本人の意向や希望を把握している。不安な気持ちが見られたら、職員が側に寄り添ったり、外出などで気分転換をはかったりして個々の状況に合わせた支援をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報をもとにご利用者の暮らしを把握できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化がある場合は報告しあうようにしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にスタッフ会議を開き、現状把握に努めている。	日々の支援で気づいたことは申し送りノートに記入し職員が共有しており、定期的にモニタリングを実施して利用者の意向や要望について話し合っている。さらに家族の希望等を取り入れケアプランを作成している。必要な医療情報は看護師から得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに記入し、情報の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組めていない。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できていない。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に経営母体である病院をかかりつけ医とすることを了解していただき、毎月1回往診に来ていただいている。	経営母体の病院の往診が月1回、歯科医の往診が毎週ある。他科の受診は原則として家族が支援することになっており、受診情報は家族から得ている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時の担当看護師が決まっており、必要なアドバイスをいただいている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院に入院することが多く、往診時に看護師から情報をいただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的ケアが主体になる場合やホームでの介護が困難になることが予想される場合は早めに病院関係者と連携しながらご家族と連絡を取る。	現在看取りを実施していないが、24時間対応の連絡体制があるので、ターミナルケアに向けて家族と話し合っって取り組むことを考えている。職員は、「ホームで最後まで過ごしたい」という利用者の意向を意識して日々のケアに臨んでいる。	看取りの実施を推進する方針であるので、今後は、研修を行ったり経験者の話を聞くなどして、職員の意識向上をはかることを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のフローチャートを事務所に掲示している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。	消防署の立ち会いで、年2回の避難訓練及び消火器を使った訓練を実施している。次回は夜間想定訓練を行う予定である。地域住民の参加を呼び掛けている。非常時用の備蓄は本部にて計画中である。	地域の住民や消防団への協力を呼びかけること、また、非常時用の飲料水・食品等を備蓄することを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を否定するような言動がないよう注意している。	個人の尊厳やプライバシーを損ねないケアを心がけており、管理者は職員に対して気になる言動があればその場でさりげなく注意している。家族が来訪した場合は居室に案内して気兼ねなく話をしてもらっている。個人情報の記載された書類は鍵をかけたキャビネットに保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくご希望に添える様努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思を尊重するよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者の能力に応じた手伝いをしている。	メニューと食材の配達は専門業者を利用しているが、季節のものを取り入れてもらっている。調理はホームで行っている。職員はゆっくり会話しながら一緒にテーブルを囲んで食べている。利用者は野菜を切ったり、お隣の人の食器の片付けをするなど、その人に合った手伝いをしていた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量をチェックし、対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの誘導、声掛けをしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを基に対応している。	排泄チェック表でタイミングを把握してさりげない誘導を心がけている。トイレは表示を分かりやすくしており、各フロアに車椅子対応を含めて3箇所ある。夜間、リハビリパンツを使う場合でも、傾合いを見はからってトイレ誘導も行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認し、対応している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	日中に入浴している。	入浴は原則として週2回で、午前または午後の好きな時間を選択できる。浴室は広くリフト浴が可能である。入りたがらない場合は強いることなく時間を置いたり人を変えて誘導している。現在は全員無理なく入浴できている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態にあわせて安心して過ごせるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないようスタッフ同士確認しあい、服薬後の観察をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	単調な生活にならないようレクリエーションなど楽しみながらできるよう工夫している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や行事で出かけたりしている。	日常の外出としては、近くの公園やスーパーマーケット等におやつの買い物に出かけている。車椅子の場合も対応している。また、法人の車を利用してお花見や県営の公園、または遠方の川等へドライブに出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	あまり支援できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がある場合は対応している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地がいいよう努めている。	共用空間は、窓が大きくて採光もよく温度や湿度を職員がこまめに点検をしていた。壁には季節の手作りカレンダーやひな祭り用の壁飾り、絵手紙が飾り付けてあり気持ちが和やかになる雰囲気づくりをしている。廊下は車椅子がすれ違うことができる広さがあり、両側に手すりが備えられ安全に配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2台用意し、一人ですごせる空間を作っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのものを居室においていただいている。	居室入口には目印の名札や自分で作った暖簾等があり、居室の区別を工夫している。内部は防災カーテン、空調設備、クローゼットが常備され、ベッド、タンス、加湿器、テレビ等に加え、家族の写真、絵画など馴染みのものを持ち込んでいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下にもものを置かないようにしたり自分の部屋がわからない方には暖簾を付れたりしている。		